

GIFA ふれんどしっぷ

Gifu Hachiman International Friendship Association

Vol. 17

発行

郡上八幡国際友好協会
事務局

八幡町役場総合政策課内

☎0575-67-1122

http://www.gifa.jp

E-mail:office@gifa.jp

第二回 GIFA 国際理解・国際貢献学習会

「国境なき医師団講演会&パネル展」

【期日】平成十四年十一月二十三日(土・祝)

午後一時三十分より

【会場】郡上八幡総合文化センター多目的ホール

平成十四年十一月二十三日、文化センターにおいて「国境なき医師団日本」の内科認定医・永井真理さんを講師にお迎えし、国際理解・国際貢献講演会を開催しました。

「国境なき医師団」は「あらゆる災害に苦しむ人々に、人種、宗教、思想、政治すべてを超え、差別することなく援助を提供する」という理念のもとに、一九七二年フランスで設立された民間援助団体です。現在年間約三、〇〇〇人以上の医師、看護婦、助産婦、技術者、物資調達要員が世界八七カ国で援助活動を継続しています。



イランでのアフガン難民支援について語る永井真理医師

四〇カ国以上からボランティアが派遣されており、国境なき医師団が行っている医療援助プログラムのその費用の七九%が民間の資金援助によって支えられています。

国立国際医療センターなどに勤務されていた永井さんは、一九九九年九月から二〇〇〇年四月にかけて内戦が続くスリランカで診療チームに参加。二〇〇〇年九月から二〇〇一年四月にはイランにチームリーダーとして派遣されアフガン難民の援助をされました。

講演会では、主にアフガン難民の歴史的背景やイランでの実状、国境なき医師団の医療活動について、地図やスライドを使って解りやすく語られました。

医学部五年生に在籍しながらタリバン兵に迫害されアフガン難民となった元医学生との出会い、村の焼き討ちで家族を失い自らの片足も地雷で失った少年と義足の話、医療援助には組織としての優先順位がありすべての人に援助はできない現実……

そうしたやるせない現実憤り

を感じながらも、現地の人や同僚のスタッフとの人種や宗教を越えた交流の話にホッと温かくなることもありました。

またチャド(イスラム圏の女性が習慣として身につけるもの、公衆で髪をさらすことは裸で人前に出るに等しい恥ずかしい行為とみなされる)を身につけ、茶目つ気を含んだ柔らかな眼差しを覗かせながら、治療中にチャドがズルリと滑り落ち、男性患者からギョツとした顔をされた話には、会場から笑みがこぼれていました。

医療・ボランティア関係者、教員、中・高校生等、国際事情や国際協力に関心をもった約六十名の参加者が集り、熱心に耳を傾け、講演終了後にはいくつかの質問がされました。

一つひとつ丁寧に答えられ、「中学生に伝えたいことは？」の質問には「これからは国際的な協力や連帯が必要不可欠になります。英語の習得は大切で、将来仕事に就くとき、これからの人生のハードルを低くしてくれるのに役立ちます。」とアドバイスされました。

また、国としての国際貢献について、他国と比べて極端に難民の受入数が少ない日本政府の実状を指摘、積極的な難民受入について訴えられました。

戦争や民族紛争と無縁と言っている日本と違い、世界には何十年



講演に聴き入る参加者たち

と続く暴力や貧困、飢え、死と隣り合わせの不安な日常に身を置かなければならない人たちが、国を捨て、国を追われて、愛する自国から出て難民となった人たちが大勢いることを、忘れないで心に留め続けておかねければ、と強く思いしました。

こうした思いに突き動かされて行動することが、国際理解から国際協力・国際貢献への第一歩になるものでしょう。

今後の予定を尋ねられた永井さんは、かつてペルシャ帝国として繁栄を極めた故郷アフガニスタンを、難民たちが花咲く美しい国と誇らしく話した事が心に残り、次回の派遣地としてアフガニスタンを希望し、それが叶ったこと。

そして、アフガニスタンで医療活動中の夫と合流することも楽しみにしていることを話されました。

永井さんとの出会いは、ほんの一

時でしたが、私たちの心をさわやかな風のように通り抜けて、一人ひとりの心に国際協力・国際貢献の種を運んでくれたように感じています。永井さんの自然体でボランティアを楽しもうとする姿に学ばせて頂きました。(S)

※講演会終了後、参加者の皆様から国境なき医師団への募金にご協力頂きました。
ご厚意二五、九七〇円は、国境なき医師団日本へ寄付させて頂きました。
ありがとうございます。

国境なき医師団講演会アンケートより 〈五十九名参加者中、二十二名より回答〉

1、国境なき医師団講演会に参加されたきっかけは何ですか？

- ◎チラシ、ポスターを見て
- ◎家族、友人、協会会員より誘われて
- ◎興味・関心を持って
- ◎五十円募金をしている高校の先生から授業で紹介されて
- ◎知識を得たいと考えて
- ◎現場で働く当事者の生の話を聞きたくて 他

2、講演会についての感想をお書き下さい！

- ・講演を聴いて、すごい近いところに国際協力というものがあることを感じた。医療活動に携わる人たちの具体的なお話が聞けて嬉しかった。(女性/63才)
- ・(医師団参加のきっかけを)旅が好きでと言われましたが私にはなかなかできる事とは思えませ

ん。(女性/57才)

・TV、新聞等で難民に関する知識はありましたが、先生の話を聞きなると考え直した。
子供は国の宝であるから、援助をする必要があると感じた。

(男性/59才)

・今、日本人が不況だとか言うけど、それでも贅沢な暮らしをしているんだと思った。
アフガニスタンの小さい子たちが大きくなって自分の国を皆が住みやすい国にしようと思って、紛争や戦争がなくなったらいいなと思った。

(女性/39才)

・そのために周りの人たちがする援助がすごく重要だと思ったので、少しでも多くの人が理解して何かやれたらもっと世界が良くなると思った。

(女性/高校生)

・世界では、食糧不足や病気やけがをしても病院に行けなくて死

んでしまうことが多くて、悲しいことだと思っています。

・国境なき医師団やその他のボランティア団体の人たちの手で、少しでも病気やけががなく生きていけるといいと思います。

でも、今日の話を聞いて、まだまだ問題はたくさんあるんだなと感じました。(女性/高校生)

・まず反省として、イランへのイメージが様々な情報で固定化してしまい、中近東＝悪のイメージを持っていました。
しかし、大多数は平和を望む一般人であり上層部の思想、行動で大きな被害を受けるといふ近年まで続く流れ、情勢を一刻も早くこの地球からなくしたい。

(男性/23才)

・お仕事の内容のみでなくあちらの文化に触れることもできました。
今日のような現地での生の情報は大変参考になります。
いろいろな資料を紹介して頂けるとありがたいと思います。

(男性/46才)

・国外とはいかなくても身近なところでボランティア活動に積極的に参加したい。(男性/49才)

(男性/49才)

・国際貢献の一つとして国境なき医師団の活動は素晴らしいと思う。

ぜひ頑張ってください。

・こうした講演会を協会が開かれたことは良かった。

(女性/57才)

・日本はいろんな偏見もありそれを無くすることが大切だと思う。

(女性/56才)

3、あなたは、どんな国際協力ができると思いますか？

- ・募金、寄付。
- ・現在、飢餓対策機構、里親の協力をしています。
- ・自分の仕事「教える」ことをとおして関わっていくつもりです。
- ・ボランティアの仲間に話をするこ
- と。
- ・世界のことを自分と関係ないと思わずに、身近に思うことがまずは大切だと思った。
- ・「ボランティアは強制されてやるものではなく、自分がしたいと思うて行動すること」

・「ボランティア

は強制されてやるものではなく、自分がしたいと思うて行動すること」

・「ボランティア

は強制されてやるものではなく、自分がしたいと思うて行動すること」

・「ボランティア

は強制されてやるものではなく、自分がしたいと思うて行動すること」

・「ボランティア

は強制されてやるものではなく、自分がしたいと思うて行動すること」

・「ボランティア

は強制されてやるものではなく、自分がしたいと思うて行動すること」

・「ボランティア

は強制されてやるものではなく、自分がしたいと思うて行動すること」

・「ボランティア

は強制されてやるものではなく、自分がしたいと思うて行動すること」

・「ボランティア

は強制されてやるものではなく、自分がしたいと思うて行動すること」

・「ボランティア

は強制されてやるものではなく、自分がしたいと思うて行動すること」

* 会員募集中 *

GIFA〈郡上八幡国際友好協会〉

- 1.異なる国の文化や生活にふれてみませんか？
- 2.いろんな国の人と友達になりませんか？
- 3.子どもたちの未来に手をさしのべませんか？

郡上八幡国際友好協会では会員を募集しています。年会費は個人3,000円、団体10,000円です。年会費は、留学生の受入や学習会、料理を楽しむ会などの事業や広報活動の費用として大切に使われます。

またボランティアの登録も行っておりますので、ホストファミリーや通訳等にご協力いただける方、

国際交流事業の企画に関心があり、一緒に実現してくれる方も募集しています。

ご入会、ご連絡お待ちしております。

お問い合わせ・・・郡上八幡国際友好協会事務局

TEL 67-1122 (内線318)

CC:の『平和追求』へのボーダレスを目指す意識改革をそれぞれが持てる『学び』がしたい。
その国の人たちが生活の基盤を獲得できる、人が人間らしい生活を送れる環境を作っていくための力になりたいと思う。

どのような形でできるか、考えていきたい。

・国際事情を正しく理解するところから始めたい。

・世界平和のための努力は政治上の諸主張もあり基本的な立場を固めながら努力したいと思っています。

・地元、地域にいる在住外国人との交流の場を設けることが原点であろうと思っています。



第一回 世界の料理を楽しむ会

(中国・韓国料理)

【期日】平成十四年十一月三十日(土)

午前十一時より

【会場】八幡小学校調理室

日中国交正常化三十周年を記念し、第一回世界の料理を楽しむ会は、中国出身で八幡町在住の渡辺桂子さん、井田光実さんを講師に「水餃子」と「ウボンムチム」(ごぼうのキムチ)作りをしました。

会場には小学生から七十代までの、町民を中心に郡内のアメリカ出身のALTTたちの参加もあって、年齢や国籍の異なる二十九名が集まりました。

自己紹介のあと、渡辺さんの餃子の皮三十人分の生地づくりのダイナミックな様子に圧倒されつつ、料理づくりがスタート。

生地を寝かしておく間に、餃子の具やウボンムチムの材料の下ごしらえの作業をグループで進めます。

生地が仕上がったところで小分けし、棒状にして適当な大きさに切り分け、切り口が上下になるように置いて手のひらで押さえ、麺棒を使って円形にします。

この作業は子どもたちや、初めての人にはなかなか難しい様子でしたが、渡辺さんや井田さんの手と麺棒の動きをお手本に頑張りました。

具を包む次の作業に進む頃には余裕の表情になり、初めて出会った人との会話や笑い声も弾んでとても賑やかです。

出来上がった餃子はたっぷりの湯で茹で

上げます。

たれは酢としょうゆを併せますが、中国では酢の割合が日本のものより多く健康的。

日本では餃子はご飯のおかずとしての一品ですが、中国では餃子は主食としてとられます。

また、日本では餃子にんにくを入れますが、中国では一般に、えびや豚肉などの旨みが台無しになるからと風味の強いにんにくを一緒に入れることは無いそうです。

ウボンムチムはごぼうの下ごしらえと蒸す時間に少しだけ手間をかけたのですが、サラダ油で粉唐辛子に火を通したものと、蒸したごぼうと生の人参、にんにくとごまを混ぜ併せ、あつという間に風味の良い美味しいキムチが出来上がったのには驚きでした。

水餃子とウボンムチムをお皿に盛りつけ、井田さんから手作りの白菜キムチやカクテキ、ご自宅の庭で採れた柿の差し入れもあって、テーブルには豪華な昼食が並びました。

さあ、みんな揃って「いただきます」。

こんな時は「美味しい」の言葉のほかに見つかりません。

食後のミニ交流会では、簡単な中国語と韓国語のあいさつを学んだり、生活や習慣の違いから驚いたエピソードを披露してもらいました。

その一つを紹介しましょう。

参加者の声

- ・皮が丸くなくて大変だったけど、上手に作れてよかったです。(M希)
- ・餃子の皮から久しぶりに作りましたが、自己流の作り方とは違ってとても勉強になりました。(T代)
- ・お料理を通じ、日本以外の文化を知ることでもき本当たのしかった。地元の人たちもおしゃべりできてステキな交流会でした。(Y子)
- ・小学一年の時、旧満州より引き上げてきたのですが、餃子には少なからず思い入れがあり、本日参加させて頂き感謝しております。(H)
- ・早速作ってみます。美味しかったです。(H江)
- ・自己流で作っていたのと本場の方の作るのではずいぶん違うので驚いた。(H子)
- ・我が家では代々和風のキムチを受け継いでおり毎年一冬食べるようにたくさん漬けて込みます。これを機に韓国キムチの良いところを取り入れると更に美味しくなるのではと、とても楽しく参加させていただきました。(Y子)

奥の部屋に続くふすまを慌てて閉められ、玄関先での立ち話だけで家に上げてもらえず、がっかりしたという話。

訪問の際、事前に知らせることが礼儀と考えられる日本に対し、中国は突然の来客であつても、それが食事中であつても招き入れ、おもてなしするのが礼儀で、玄関先でお帰しすることは考えられないのだそう。

中国の人の大地や流れる河のような、大きな心に感心しながらも、突然の来客に慌てて部屋を片づけている私にとって、ちょっと耳の痛くなる話でした。

文化や習慣、歴史等を理解することがその国の人を理解することであり、人を理解することがその国を理解することなのだ、と、交流のすばらしさを感じました。(S)



2003年度 岐阜大学サマースクール日程決まる!

— 2003年7月11日(金)～14日(月) —

今年も岐阜大学夏期短期留学生(スウェーデン/ルンド* 大学、韓国/ソウル産業大学)が3泊4日のプログラムで郡上八幡を訪れます。

学生は6月上旬より8週間(一部3週間)、寮生活をしながら岐阜大学で日本語と日本事情講座を受講します。

郡上八幡では日本文化講座とホームステイを体験します。郡上のホストファミリーと、町内での手作りプログラムは大好評で、全体のハイライトになっているそうです。

ぜひ、みなさんも今年の夏、ホストファミリーを体験なさいませんか?

留学生の感想文

*私にとって海外旅行は初めてでしたが、日本を初めての場所を選んだのは良い選択だったと思います。

なぜなら大勢の日本人に親切さを感じたことは、他の国に対する不安を無くすのに十分だったからです。

だから日本に来たのはとてもよかったです。

日本にいる3週間に色々なことがありました。

日本に来て忘れられない思い出ができました。

郡上八幡というところでホームステイしたことはとてもよかったです。

ホストファミリーの人と色々な所に行ったり食べ物を食べたりして、日本の生活を経験しました。

私のホストファミリーの岩屋さんと一緒に和田家や八幡城など色々な所へ行って、うなぎとさしみも食べて、日本の普通の家庭を体験したのは、非常に大切な思い出だと思っています。(金炳吾さん)

*忘れられない思い出が沢山ありました。

初めてホストファミリーの家で日本の生活を経験しました。

ホームステイの間に沢山のことを学びました。

例えばお婆さんとお爺さんとお父さんとお母さんと子どもと一緒に生活していることです。

スウェーデンにはこのような家族はありません。

とても面白かったです。

郡上八幡はいい思い出になりました。

きれいな自然が大好きで、文化と手工業に興味があるから、この山の中の町は面白かったです。

忘れられないことは、水野政雄さんにあった時でした。

折り紙の達人で、私は彼が折り紙でいるいるなものを作るのに感心しました。(ニーナ・ラスクさん)

岐阜大学夏期短期留学サマースクール報告書〈岐阜大学留学センター〉より

春の海外ボランティア募集

○青年海外協力隊(20～39才)

○シニア海外ボランティア(40～69才)

○日系社会シニアボランティア(40～69才)

【募集期間】

平成15年4月10日(木)～5月20日(火)

【問い合わせ先】

JICA中部国際センター

TEL:052-702-1391

ホームページ: <http://www.jica.go.jp/>

あなたの情熱を、経験を、技術を、世界は待っています。

県内各地で募集説明会を開催します。

予約不要入場無料、是非お出かけ下さい。



食事の習慣・マナー・会話集

【アメリカ・ヨーロッパ】

- ・会話を楽しみながら食事をする。
 - ・お皿はテーブルに置いたまま持ち上げない。
 - ・食卓の塩などは近くの人に頼んで取ってもらう。
 - ・ゲップは厳禁。
 - ・お酒は各自で注ぐ。自分のペースで楽しむ。
- 英 語:「デリシャス(美味しい)」「サンキュー(ありがとう)」「ハロー(こんにちは)」

【韓 国】

- ・椀や器は置いたまま手に持たない。
 - ・おかずは箸で、ご飯やスープはスプーンで。
 - ・もてなす人や目上の人から右側へ座らせる(「尊右卑左」の作法)。
 - ・家族の食事は、家長が食べ始めるまで誰も箸を手にとらない。
 - ・お酒は全部飲みきってから注ぐのがエチケット。
- 韓国語:「ノムマッサムニダ(美味しい)」「カムサハムニダ(ありがとう)」「アンニョハセヨ(こんにちは)」

【中 国】

- ・一般的に温かい食事を好む。冷たい弁当は好まない。
 - ・食事の量はたっぷりと。最後の一口を残すのは満腹の印。逆に残っていなければおかわりも。
- 中国語:「ハオ チイ(美味しい)」「シェイ シェイ(ありがとう)」「ニーハオ(こんにちは)」